

サイバーセキュリティ人材育成への考察(前編)

～この2年間での気づき～

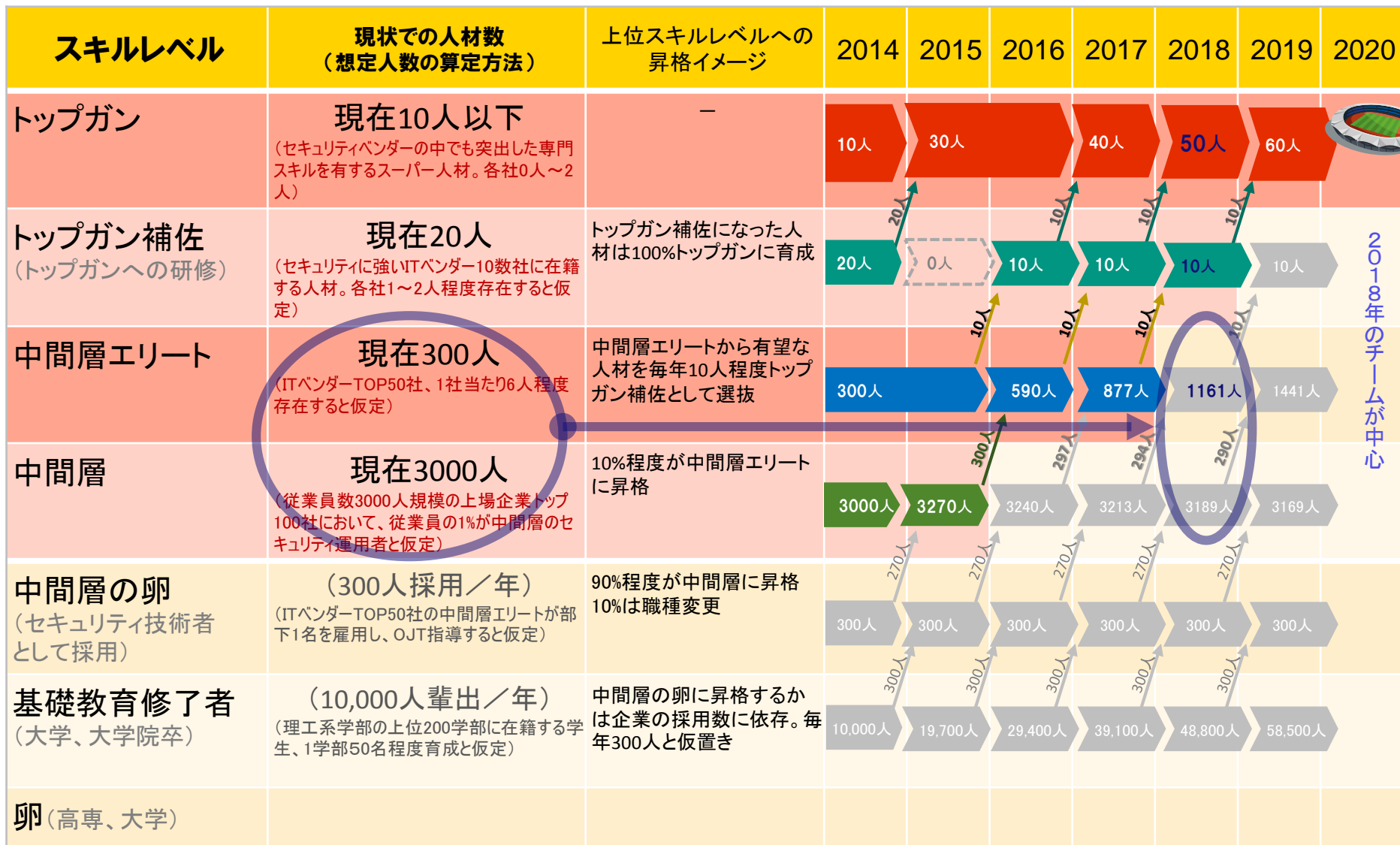
2015.12.7

産業横断サイバーセキュリティ人材育成検討会 事務局

NEC 則房

2年前に指摘した育成シミュレーション

出展：オープンガバメント・コンソーシアム/サイバーセキュリティ分科会 セミナー&報告書



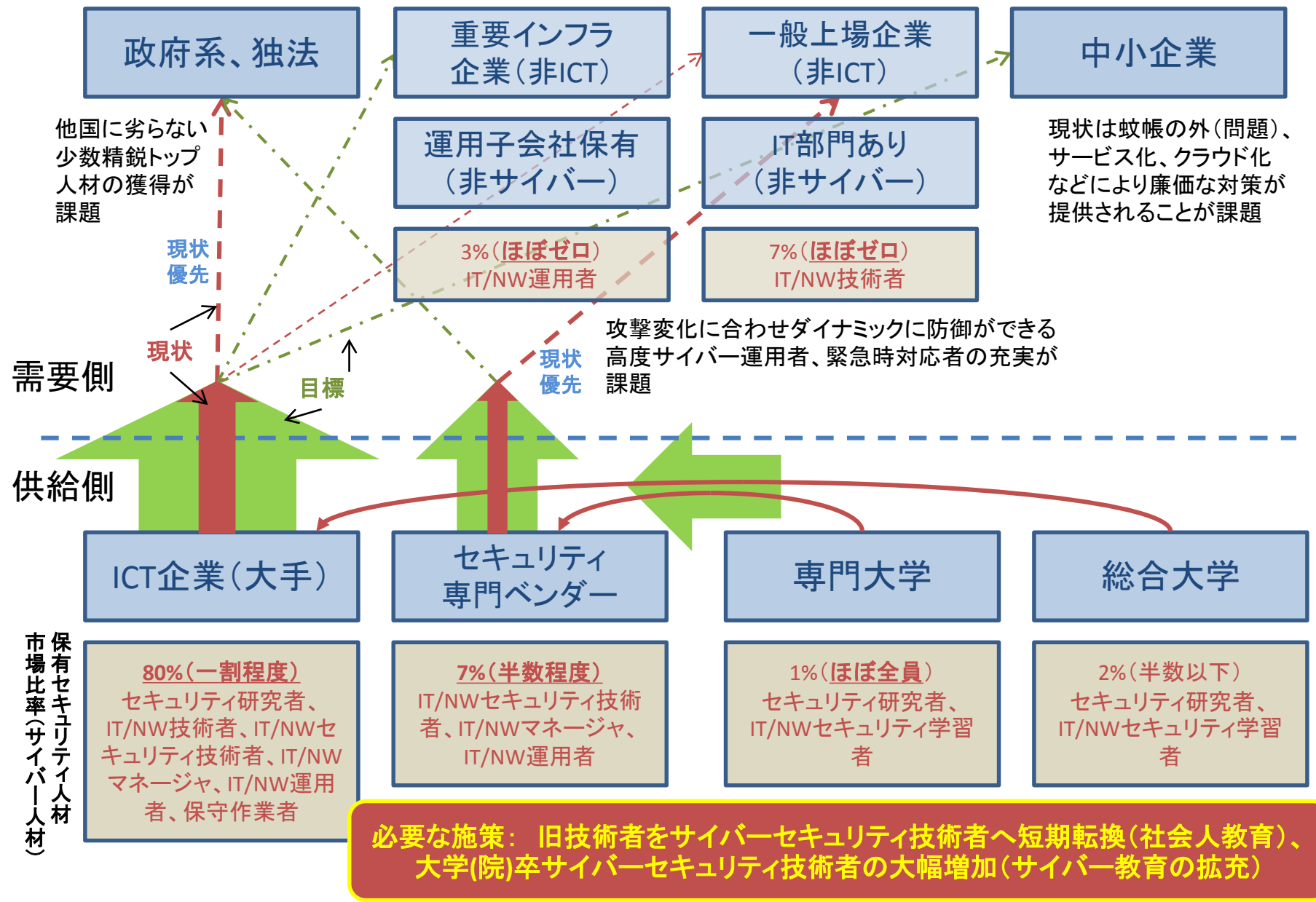
2018年までに実働部隊(中間層エリート・中間層)を如何に増やせるかがカギ

その後の検討でわかったこと

- 2020年までの期間を考えると、大学から育成するだけでは間に合わない。
- 2020年は企業内の少数現役サイバーセキュリティ技術者（中間層）、多数の潜在サイバーセキュリティ技術者（中間層候補、今は他の仕事をしている）の活用で乗り切る。
- がしかし、2020年以降を支えるサイバーセキュリティ人材として、企業での取り組みに並行して、すぐにでも大学等で育成（中間層の卵）に取り組むべき。
- トップガン育成は企業でできない。企業内には場・機会がない、指導者がいない。
- 2020年を越えると全国共通の目標を失い、足並みがそろわなくなる。何としても日本人中心で乗り切るべき。

育成対象候補は限られたところにしかない？

出展：オープンガバメント・コンソーシアム/サイバーセキュリティ分科会 セミナー&報告書



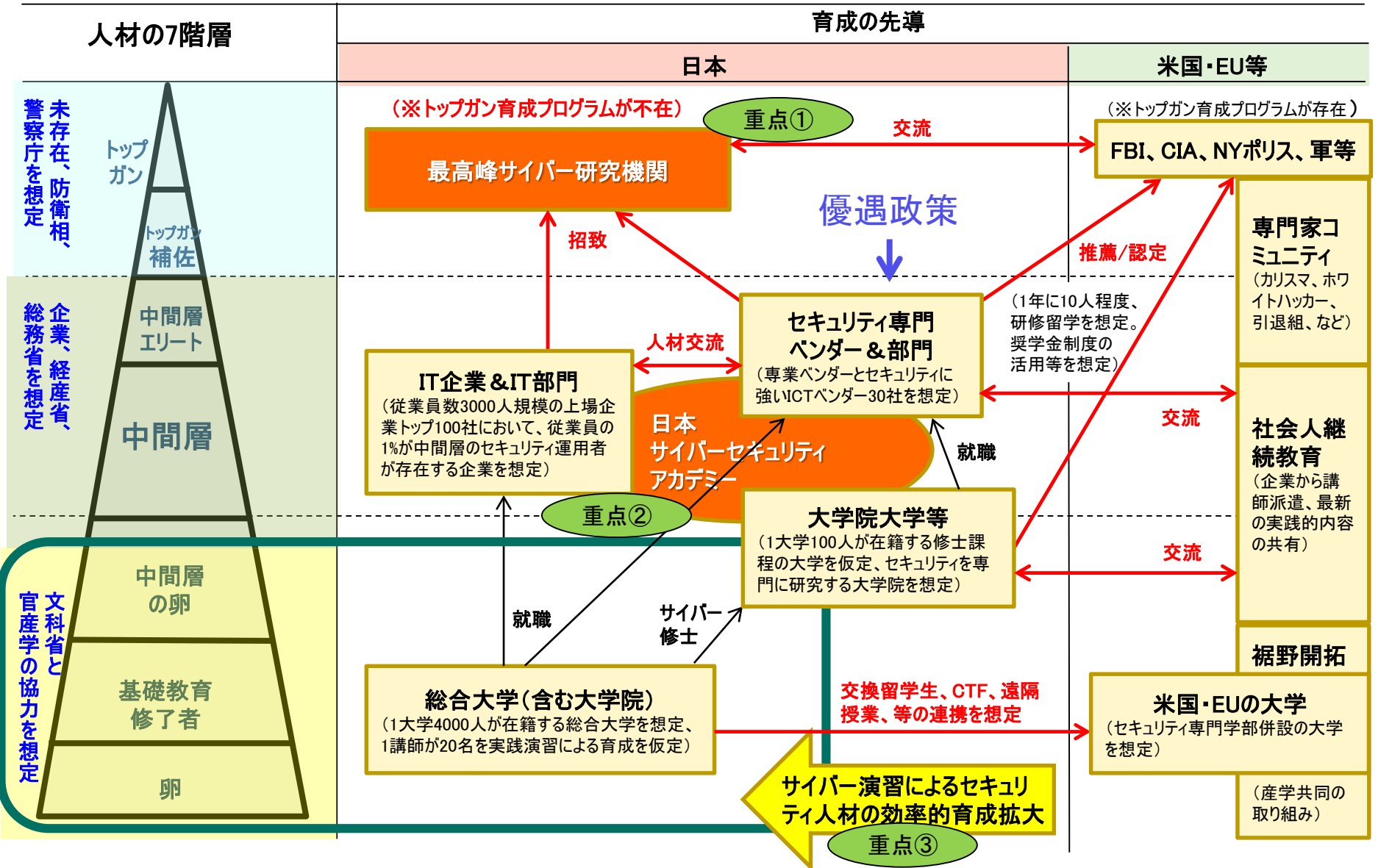
サイバーセキュリティ人材育成の候補は

- 育成シミュレーションを行ったとき、大手企業ならどこでもサイバーセキュリティ技術者育成候補がいて考えていた。大きな誤解だと思い知った。
- ほとんどの組織（非ICT企業、中小、政府、自治体・・・）には候補がない
- 上限はあるものの、大手ICT企業とセキュリティ専門ベンダーには多数いる
- 無限数の可能性があるのは、高校生、高専、大学生
- もっと無限数の可能性があるのは、海外の企業、大学生
- ただし、海外依存は十分な検討と成功の見通しが必要、黒船受け入れ側の器の充実がまず必須

サイバーセキュリティ人材育成・維持エコ・システム

出展：オープンガバメント・コンソーシアム/サイバーセキュリティ分科会 セミナー&報告書

至急整備： 既存：



エコ・システムのポイント

- 最初の一歩が、官でしか踏み出せないこと、産でしか踏み出せないこと、学でしか踏み出せないことがある
 - 官: トップガン確保・育成への動機づけ、キックオフ
 - 産: 従来技術者のサイバー技術者への配置転換
 - 学: 出来る限り数多くのサイバーセキュリティ教育修了者の排出
- 人材を育成・維持し続けるエコ・システムの開発、その決心と強い指導
 - イスラエルのエコ・システムは政府の強い意志と先導
 - エコ・システムの中で位置づける海外知恵袋の活用
- 産業横断、企業間(業界内)、企業内の仕組み作りが重要
 - 最初のとっかかり、どこまでやるのか、が見えない
 - 官の後押し、官学との強い連携が重要なカギ

サイバーセキュリティ人材育成にはまず産業界内で連携が必要

NTT、NEC、日立製作所で発起人となり経団連サイバーセキュリティ懇談会参加者に声掛けし、産業界で必要なサイバーセキュリティ人材の検討会を発足

『産業横断サイバーセキュリティ
人材育成検討会(仮称)』

平成27年6月9日(火)
10:00-11:30

ファーストスクエアビル
イーストタワー14F
30N・31N会議室

出入口
出入口